

時点による修正および誤字の修正は水色の網掛け、区政会議ご意見の反映は黄色の網掛け  
最終ページの語句注釈は、パブリックコメント・区政会議のご意見のため緑色の網掛けで  
表示しています。  
網掛け部分について、文言の削除は黒い文字で、追記した文字は赤い文字で表示しています。

(天王寺区将来ビジョン)

## 天王寺区 2.0

～ 新しい区政運営のための骨太の方針 ～

(**素案**)

将来ビジョンとは

- ・ 区長が区シティ・マネージャーとして所管する事務を含め、区内の基礎自治行政を総合的に推進していく上で、地域としての区のめざすべき将来像、その実現に向けた施策展開の方向性等をとりまとめ、区民の皆さまに明らかにするものです。

~~このたび、「区将来ビジョン(素案)」を策定しました。~~

今後、~~広く皆さまからご意見をいただきながら、~~市会での議論を経て、「区将来ビジョン」として策定してまいります。

平成 ~~25~~4年 ~~1~~2月

## 目 次

第1章	区の概況	P1
第2章	区の特徴とそれを踏まえた課題	P3
第3章	区の将来像	P5
第4章	施策展開の骨太の方針	P6
第1節	7万2,000人区民の「声」に基づく新しい区政の実現	P6
1	「区民の声」集約プロセスの強化	P6
2	「日本一の文教『都市』」をめざした人材育成の取組と海外人材の活用	P8
3	お年寄り一人ひとりの命を守り抜く地域福祉	P10
4	より多くの人に「 <u>災害対策リテラシー*</u> 」を向上する事業の追求	P11
5	戦略的な <u>シティ・プロモーション*</u> の推進	P14
第2節	行政の可能性を広げるための、「挑戦」	P17
1	資金捻出・調達・外部人材資源の公共への活用に「革命」を起こす！	P17
2	快適に利用できる区役所の追求	P19
第3節	市政改革プランに基づく「大きな公共を担う活力ある地域社会づくり」P20	

天王寺区 2.0 に込めた思い ～発想のレベルを一段上げて、政策づくりを始める～

「2.0」という言葉は、元々はコンピューター技術の用語で、

「1.0」(現状)から「2.0」(新型)へと技術・サービスの向上を意味しています。

テレビや雑誌などで「Web 2.0」という言葉を目にした方もおられるのではないのでしょうか？

Web 2.0 を象徴する様々なサービスによって、我々の生活は今、歴史の大きな転換点に立たされています。

例えば Twitter や Facebook を通じて、多くの人との交流や情報交換ができるようになりました。

また、遠い世界の出来事も、Youtube などの動画サイトを通じて素早く知ることができます。

時代の変化とともに、変わりゆく人々のニーズ(要望)

時代の変化とともに、浮き彫りとなる社会の課題

天王寺区でも、この2点を強く意識した政策方針の設定、政策立案の追求に取り組んで参りたいと考えています。

厳しい財政状況の中、区政は区民に何ができるかが問われています。財政に限りはあっても、政策立案の可能性に、

限界は無いと思います。例えば広告利用の推進、地域社会、個人法人との連携など、自由なアイデアで財政的な

限界を乗り越え、子育て支援、高齢者福祉、災害対策などといった安心の基盤をつくります。「これは、区民の

ためになる」こんな風に、自信を持っておすすめできる政策を実行できる天王寺区役所であり続けます。

水谷 翔太

## 第1章 区の概況

- 天王寺区は大阪市のほぼ中央に位置し、地勢は西高東低で、南北にのびる帯状の上町丘陵と呼ばれる台地にあります。面積は4.80k㎡(平成22年10月1日現在・国土地理院)で、区制創設当時(大正14年4月1日、4.27k㎡)から大きな変動はなく、大阪市24区の中で4番目に狭小な区です。
- 区内には、わが国仏法最初の大伽藍で、聖徳太子の創建(593年)による四天王寺をはじめ200あまりの社寺があるほか、神社仏閣の間を抜ける古い坂道が昔の姿を今にとどめるなど、歴史的・文化的な史跡が数多く残る、歴史と伝統の息づく町です。  
また、天王寺公園をはじめ緑豊かな公園が多く、大学から幼稚園まで40の学校・園を有し、美術館、動物園、図書館などの文化施設も充実した文教の町として知られています。医療面では、優れた医療設備を有する病院が多く、大阪市でもトップクラスの病床数を誇っています。



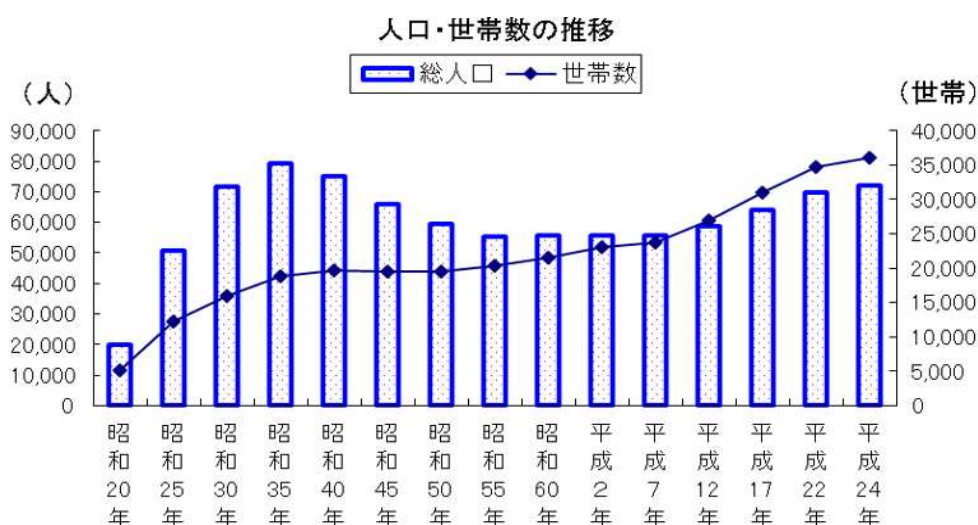
四天王寺



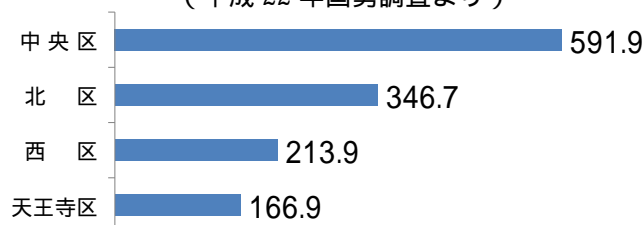
口縄坂

- 人口は、昭和34年の約8万人をピークに年々減少が続いてきましたが、昭和50年代に入ってから5万5,000人前後で推移し、近年はマンション建設の増加に伴い、平成14年には6万人を超え、平成22年には約7万人と増加を続けています。昼間人口は11万6,000人で、そのうち通学者が市内で最多の約2万6,000人を占めており、文教区としての特性がよく現れています。しかし近年は、昼夜間人口比率(常住人口100人当たりの昼間人口)が、平成12年の211.6から平成22年は166.9と低下し、常住人口が増加する一方で流入人口は減少しています。

文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります



### 昼夜間人口比率の上位4区 (平成22年国勢調査より)



- 交通面では、天王寺ターミナルは、JRを中心として地下鉄、私鉄等の各線が集結しており、付近の百貨店、商店街、地下街等の商業活動も盛んで、大阪でも有数の繁華街を形成し、国際集客都市大阪の玄関口としても更なる発展が期待されています。

また、天王寺区のもう一つの大きなターミナルである上本町周辺は、大阪国際交流センターや大阪日本語教育センターが設置され、国際交流の拠点として活動しています。

さらに、平成22年9月には、「大阪 新歌舞伎座」を核テナントとした上本町 YUFURA(ユフラ)が完成し、新たな「文化の発信拠点」が誕生しました。

- このように、歴史と伝統の息づく文教の町、充実した都市基盤と緑豊かな環境に恵まれた天王寺区は、さらに活力のある明るく住みよい町として、一層の発展が期待されています。

#### 人口の見通し

		平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)
人口		69,775人	74,233人	78,888人
構成比 (人・%)	0～14歳	8,797人(12.6%)	8,864人(11.9%)	8,776人(11.1%)
	15～64歳	47,990人(68.8%)	50,690人(68.3%)	54,116人(68.6%)
	65歳以上	12,988人(18.6%)	14,679人(19.8%)	15,996人(20.3%)

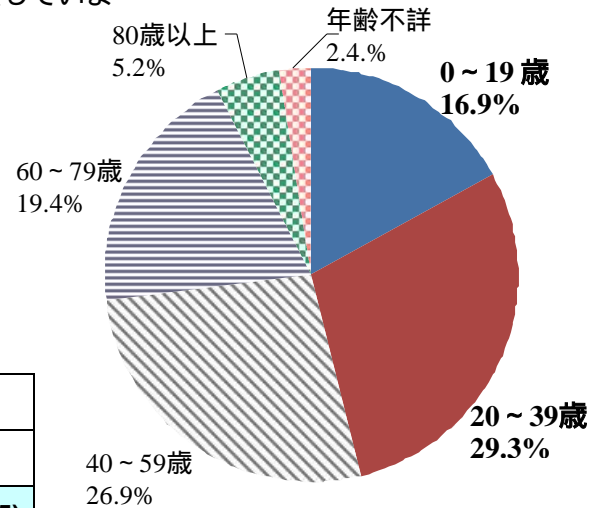
## 第2章 区の特徴とそれを踏まえた課題

### 未来を担う人材の育成

天王寺区では、区内人口の約46%が40歳未満で子どもや子育て世代が多い状況にあり、また、区民の教育に対する意識も高く、私立の高等学校など多くの学校園が集積しています。

これらの地域特性を活かして、地域やこの国の未来を担う人材の育成により一層強く取り組む必要があります。そのことにより、「日本一の文教『都市』」をめざします。

区内人口構成  
(平成22年国勢調査による)



生徒数上位3区  
(平成24年度学校基本調査)

順位	中学校		高等学校	
	区名	生徒数	区名	生徒数
1	平野	5,978 (12)	天王寺	15,205 (15)
2	天王寺	5,590 (9)	阿倍野	8,045 (9)
3	城東	5,079 (9)	住吉	7,537 (8)

( )内は各学校数

### 高齢者地域福祉の強化

天王寺区の65歳以上高齢者の実に4割が独居世帯であり、急病時や災害時の孤立化などが懸念されます。これまで、地域住民のネットワークによる見守り活動も行われてきましたが、地域とつながりのない独居高齢者、高齢者のみ世帯には十分な見守りが行き届いていません。

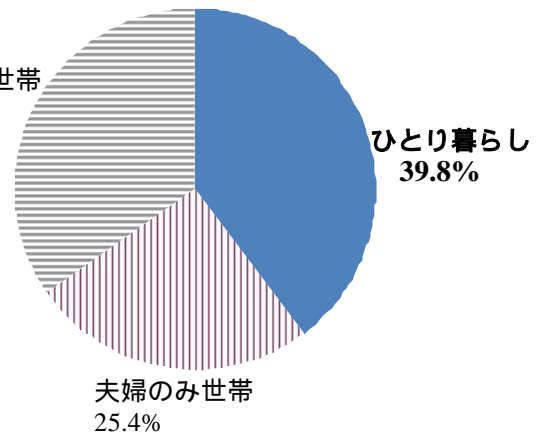
これまでの地域の活動とも連携を図りながら、新たな見守り体制の再構築が求められています。

その他の世帯  
34.8%

### 65歳以上の人がある世帯の状況

(天王寺区)

(平成22年国勢調査による)



### 「災害対策リテラシー<sup>\*</sup>」の強化

天王寺区では、上町断層帯地震が昼間に発生すると、死者数は 573 人、人口千人当たりで換算すると 9.2 人となり 24 区中第 2 位と想定されています。また、全半壊家屋は 6,813 棟で、率にすると 66% で 24 区中第 4 位と、大きな被害を受けると考えられています。

また、近年の建設ラッシュにより、高層マンションが激増していますが、行政や地域と連携した災害対策が十分ではありません。

みんなの命を守るため、区民一人ひとりの「災害対策リテラシー<sup>\*</sup>」の強化による徹底した自助力の向上が欠かせません。

その他、区民の安全安心を守る危機管理体制の構築が課題です。

上町断層帯地震発生時における千人当たりの死者数及び建物の全半壊率上位 4 区  
(危機管理室資料より)

	人口	死者数	死者数/千人	順位		建物棟数	全半壊棟数	全半壊率	順位
中央区	69,742 人	2,252 人	32.3 人	1	中央区	11,516 棟	10,870 棟	94.4%	1
天王寺区	62,365 人	573 人	9.2 人	2	旭区	22,963 棟	16,392 棟	71.4%	2
北区	96,684 人	754 人	7.8 人	3	東成区	22,043 棟	14,661 棟	66.5%	3
旭区	95,959 人	486 人	5.1 人	4	天王寺区	10,275 棟	6,813 棟	66.3%	4

### 地域の資産を活かした戦略的なシティ・プロモーション<sup>\*</sup>

天王寺区内には、四天王寺をはじめ約 200 もの社寺や動物園・美術館など多くの歴史的・文化的資産が集積し、様々な伝統行事やイベントが行われていますが、これらの情報を区内外へ効果的に発信できていません。

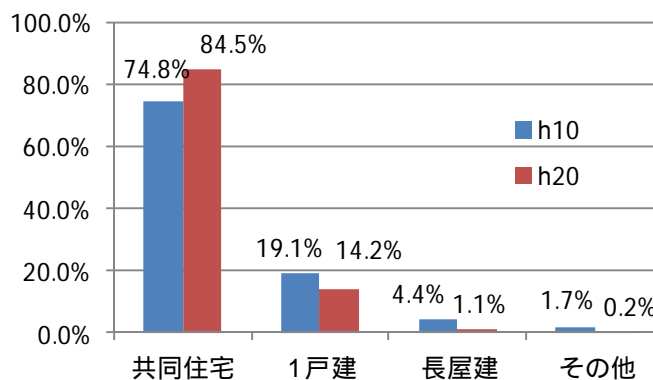
これら他の区にはない貴重な資産の効果的な情報発信を行い、まちのブランディング<sup>\*</sup>を強化する必要があります。

### (区政に関わる課題)

新しい住民、若手世代などのサイレント・マジョリティ<sup>\*</sup>も含めた区民の声の集約と地域活動の活性化

天王寺区では、近年のマンション建設に伴い新しい住民、若手世代が増加していますが、それらの区民の声が十分に区政に反映されていません。また、地域活動の情報が十分に届かず、活動に広がりがありません。

今後、新しい住民、若手住民も含めた幅広い区民の声の区政への反映、また地域活動の更なる活性化が求められます。地域活動に関しては、団体間の連携も一層進めなければなりません。



区内における各建て方の割合 (住宅土地統計調査より)

### 第3章 区の将来像

以上に述べました天王寺区の特性を踏まえた課題を克服することにより、区民の皆様が夢と希望を持つことができるよう、皆様と一緒に次に掲げる「区の将来像」をめざします。

『みんなの「思い」が区政に反映されているまち』

『未来を担う人材が育成されているまち  
～ 日本一の文教「都市」の実現～』

『「命を守る政策」がしっかりと進められているまち』

『歴史的・文化的資産を活かして多くの人  
集いにぎわうまち』

をめざします



【将来像を見据える期間】

地域としての区の将来像を見据える期間は  
平成24年度から5年間とします



文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

## 第4章 施策展開の骨太の方針

### 第1節 7万2,000人区民の「声」に基づく新しい区政の実現

大阪市では現在、「ニア・イズ・ベター<sup>\*</sup>」をキーワードに、市役所と区役所の役割分担の徹底化が図られています。そうした中、市民の皆さんにより身近な区役所への権限が移譲されていて、天王寺区においても基礎自治体としていかなるサービスを提供できるかということが問われています。中之島にある市役所本庁舎だけでは、大阪市の人口約270万人の「声」は聞こえてきません。市役所より身近な区役所が責任をもって区内約7万2,000人の「声」を反映し得る「新しい区政運営」を実現していきます。

「みんなの『思い』が区政に反映されているまち」に向けて

#### 1. 「区民の声」集約プロセスの強化

「区民の声」集約とそれらの区政への反映については、これまで地域振興町会を中心とした地域団体を中心に行われてきました。町会が担う公共的機能については今後も重視していかなければなりません。しかしその一方で、町会加入率が50%程度に落ち込んでいる現状に着目し、町会未加入者も含めた区民の声集約プロセスを再構築する必要性が生じています。

この点に関する具体的な解決策として、天王寺区では

区政会議の再構築～区政有識者会議と区政戦略会議への二分化～

戸別訪問型区民の声集約チーム～あなたの声をつなげ隊～

の取組を進めていきます。

区政会議については具体的に、従来、地域振興会ははじめ地域団体の代表者を中心に構成されていた区政会議（今後は区政有識者会議）に加え、新たに公募委員によって構成される区政戦略会議を設けます。戦略会議の委員の公募にあたっては、町会未加入者の多くを占めている「若手世代」や近年のマンション等集合住宅の建設ラッシュに伴う「新住民」を中心とします。構成メンバーの異なる2つの会議体を駆使して、幅広い年齢層・就業形態・価値観の区民の声を可視化し、区政に反映していきます。



【成果目標】27年度末 区民の声が区政に反映されていると感じる区民の割合 80%  
【工 程】25年度末 集約した区民の声の次年度予算への着実な反映  
26年度末 評価・検証

さらに の委員に選任されていない「サイレント・マジョリティ<sup>\*</sup>」の区民の声については戸別訪問型区民の声集約チーム～あなたの声をつなげ隊～を活用して集約してまいります。区民の多くは日ごろ家事・仕事等に忙しく、区役所に意見要望を行う機会を見出せずにおります。こうした区民が意見要望を行うのを受動的に待つのではなく、区役所の方から能動的にアプローチしていき、区民の声を集約していくというのが「つなげ隊」の趣旨です。

また、集約された区民の声については区広報紙・ホームページ等を活用して随時公開していき、こうした公開する意見要望については区役所として「対応が可能か否か」「対応不可能の場合の理由」を明示したコメントを付していく方針です。

【成果目標】27年度末 区民の声が区政に反映されていると感じる区民の割合 80%  
【工 程】25年度末 対象世帯の戸別訪問達成率 70%  
26年度末 対象世帯の戸別訪問達成率 70%



文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

「未来を担う人材が育成されているまち ～日本一の文教「都市」の実現～」に向けて

2. 「日本一の文教『都市』」をめざした人材育成の取組と海外人材の活用

人口のおよそ半分が0～40歳と、子ども、子育て世代の割合が他区に比べても多い天王寺区は文教地区として高い評価を受けてきました。これはまさに学校が教育意識の高い保護者、地域と連携してこれまで努力してきた賜物です。

文教地区としての価値をさらに輝かせるためにも、子育て世代の負担感をできる限り緩和するとともに、天王寺区では学校教育では提供されていない、社会教育の機会を以下の内容で提供していく方針です。放課後や休日の空いた時間の使い方を、部活動や塾だけでなく天王寺区の事業として提供する多様な社会教育機会の中から選んでいただき、お子さん達それぞれの将来に向けた挑戦の一助として役立てていただくことをめざします。

主に中高生を対象に区内の店舗・工場・行政機関、大阪市内に拠点を持つ企業等で中長期スパンの「インターンシップ（職業体験）\*」のプログラムを導入します。パソコンを扱う技能やドキュメンテーション（文書作成）、プレゼンテーション（自分の考えを発表すること）**など社会で生きて行くために必要な**技能を受け入れ先の企業の仕事を体験することを通じて養ってもらうことが目的です。

企業・NPO法人と連携した新しい社会教育プログラムの開発・実施に取り組みます。具体的には小中学生が政治・行政・経済といった社会の仕組みをわかりやすく、楽しみながら学び、課題解決のアプローチを検討するプログラム等を立案・実施していきます。

【成果目標】 共通 27年度末 プログラム利用者の満足度 70%

【工程】 25年度末 調査検討を踏まえ、環境が整ったものから順次提供  
26年度末 評価・検証

内閣府の調査によりますと、日本は子育てにかかる費用が最もかかる国の1つで、このことから家計上の理由で子どもの将来のための投資が制限されがちです。そこで天王寺区では、子育て支援サービスや乳幼児（0～2歳）の医療費自己負担額の償還などに使えるパウチャー制度\*の検討など、子育てを支援し、子どもの将来のための投資を促がす施策に取り組みます。

他区に比べて0～15歳人口の占める割合が高いことから、教育意識が高い天王寺区

の子育て世帯の家計負担を緩和することは、子どもの将来のための投資の活性化につながっていく可能性が高く、日本一の文教地区をめざす上で非常に重要です。

【成果目標】27年度末 支援内容に満足する子育て世代の割合 70%

【工程】25年度末 関係局との協議、制度設計

26年度末 実施

また、仕事との両立など子育てに関する様々な悩みや不安を持つ世帯に対して、個々にきめ細かな相談支援、情報提供等を行う「子育てナビゲーション事業」を充実します。

保育サービスに関しては、保育所の誘致や個人実施型保育ママ事業\*などにより、待機児童の解消を図ります。

【成果目標】27年度末 ナビゲーション利用者の満足度 70%

【工程】25年度末 子育てナビゲーションの充実と待機児童の解消

26年度末 評価・検証

各種機関の試算によると乳幼児期以上に、小学校、中学校、高校、大学と学年が進むにつれて子育て費用はかかってきます。特に進学のための受験を控えた中高生においては塾代という形で負担が生じてきます。家計の状況によっては通塾ができず、進学機会を得られないこともあります。この点について天王寺区では一定の所得水準以下（教育扶助受給世帯）等を対象に「公立塾」（仮称）を設置し、低額ないし無料で進学塾と同等の授業を提供します。授業の実施にあたっては大手進学塾、近隣の大学生と連携し、また、利用者のプライバシー等については十分な配慮を行います。

【成果目標】27年度末 利用者の満足度 70%

【工程】25年度末 ニーズ調査および検討

26年度末 実施

また、天王寺区内に設けられた国際交流センターと連携して在阪の留学生と社会・文化・経済等多分野での交流を進めていきます。

【成果目標】27年度末 交流参加者の満足度 70%

【工程】25年度末 留学生との交流機会の提供

26年度末 引き続き実施

文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

## 「命を守る政策」がしっかりと進められているまち に向けて

### 3. お年寄り一人ひとりの命を守りぬく地域福祉

天王寺区内のお年寄り（65歳以上）の半分近くが独居生活を送っています。区ではこれまで地域の人たちの協力を得て、独居のお年寄りが月に2回程度、昼食を共にする「食事サービス」などを通じ、独居のお年寄りと地域社会とのつながりの強化に取り組み、孤独死等凄惨な事態の予防に努めてまいりました。

しかしながら、月2回程度の活動ではお年寄りの生活や体調の異変を早急に察知して対応するのに限界があります。区内に住むお年寄り1人1人を、彼ら彼女らのプライバシーを侵害しない範囲において見守っていく体制が必要です。

このために「独居高齢者等見守りサポーター」（仮称）を創設し、地域住民や区近隣の大学生、区内の高校生を中心に独居高齢者等の家庭訪問を行って生活状況を見守り、食事サービスなど地域行事にお誘いするなどの取組を進めていきます。

この取組は民生委員の活動と連携し、また、前述した「あなたの声をつなげ隊」も個別対話活動の中で独居高齢者等の生活状況見守りを行う方針です。

このほか、障がい者世帯など真に見守りが必要な世帯の把握に努め、見守り対象も拡大していきます。

【成果目標】27年度末 独居高齢者等の見守り体制が構築されていると感じる  
区民の割合 70%

【工程】25年度末 制度創設、実施、 26年度末 評価・検証

社会福祉協議会が設けている連絡会等を活用して介護サービス事業者等の現場ニーズを随時集約し、区役所、認定事務センターないし福祉局といった関係機関に届けて行きます。具体的には、事業者対象にアンケート調査等を行っていきます。

【成果目標】27年度末 高齢者福祉現場のニーズが関係機関に届いていると感じる  
担当者の割合 70%

【工程】25年度末 現場ニーズの集約、26年度末 評価・検証

「命を守る政策」がしっかりと進められているまち に向けて

4. より多くの人に「災害対策リテラシー<sup>\*</sup>」を向上する事業の追求

天王寺区は上町台地に位置し、その西側を上町断層帯が通っていると考えられています。国の調査では今後 30 年間に高い確率で震度 6 弱～7 の地震が発生すると想定されています。大阪府の想定では、天王寺区は昼間の死亡率が市内 2 番目に高い 573 人の死者が出るとされており、区ではこれまでも防災対策を進めてきました。

具体的には、町会単位でワークショップ<sup>\*</sup>を開催するなどして家具固定の大切さを伝えたり、各種地域団体、消防等関係機関と連携して防災訓練を実施してきました。

しかしながら、例えば家具固定ワークショップ<sup>\*</sup>に参加する人の数は限られており（H23 参加実績 平均 17 人/回）、広範な区民に災害対策の必要性を伝えきれていない状況が存在しています。災害対策において重要な概念として「自助」「共助」「公助」の 3 つがあるといいますが、このうちの「自助」の意識をより多くの人に認識してもらうための効果的な取組が求められています。

この点を踏まえて天王寺区では、具体的に次の施策を推進します。

～事前の備え～

区役所が能動的に、多くの人が集まるイベントや集客施設などに出向き、また、家事・仕事に多忙な人のスケジュールに合わせた「出前講座」を強化するなど、「区民巻き込みオペレーション（作戦・行動）」を展開します。

続いて災害対策情報の「わかりやすく、確実に伝わる」発信に努めます。災害対策関連の情報は内容が多岐にわたるため、「具体的にどんな品目を、どのくらいの量、各家庭で備蓄しておけば良いのか」という質問をしばしば受けます。

24 年度に策定する「天王寺区防災計画」の概要版とともに、「災害対策 まずはここから」（仮称）と題した A4 1 枚程度のペーパーを全戸配布し、各居宅内に日常的に掲示してもらう取組を進めます。

これまで、家具固定ワークショップ<sup>\*</sup>を実施してきましたが、高齢者の方から、「家具固定グッズを取り付けたいけど、自分では取り付けることができない」という声が多く寄せられていました。

文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

今後、独居高齢者世帯、障がい者世帯等を対象に、委託事業者<sup>など</sup>による「家具固定グッズ」取り付け支援を展開します。

企業、自衛隊、消防などといった多様な災害対策アクター（主体）と連携し、「興味を持ってもらえる、来てもらえる」イベントを追求します。例えば IT 企業と連携して SNS（ソーシャルネットワークサービス）<sup>\*</sup>サイトを使った防災訓練を実施したり、自衛隊と連携して炊飯車での作業やヘリ着陸の実演をしたりするなどを検討していきたいと考えております。

東日本大震災被災自治体との「災害対策パートナーシップ」（仮称）の締結にも取り組みます。平成 24 年度、天王寺区役所の防災担当者が福島県南相馬市を視察し、担当者・地域住民から震災発生当時の様子、災害対策に関する反省点等をヒアリングしてきました。この視察を起点とし、天王寺区では被災自治体の担当者、地域住民から区広報紙、ホームページ、対面型イベント等多様な機会を通じて区民が災害対策リテラシー<sup>\*</sup>を向上する取組を進めていきます。

加えて、「地域重要課題解決応援制度」（仮称）を設け、防災を中心に地域福祉、人材育成等の課題について「斬新かつ優れた内容」の取組を提案し、実施体制を整えた個人・団体に対して 10 万円以内の奨励金を付与することとし、行政・既存地域団体の枠を超えて課題解決が徹底的に図られる状況をつくっていきます。

#### ～被災後の備え～

マンション等集合住宅に住む人の数が激増してきている状況に鑑みて、集合住宅敷地内に物資の備蓄拠点を設ける取組も進めます。高層住宅の住民は災害発生時、避難所まで向かえず居室内に留まる可能性が高いことが専門家等から指摘されています。そこで、水や電気等の最低限のライフライン<sup>\*</sup>が確保されるよう、マンション等集合住宅に災害用物資の備蓄の配備を進めます。

また、一時避難所にかまどベンチ<sup>\*</sup>を設置し、自宅等で被災生活を送る人たちが協力して炊き出しを行ったり、暖をとったりできる環境の整備を進めます。

避難場所については、今後も私立教育機関をはじめとする民間施設や多目的施設にも協力依頼を続けていくとともに、「女性用避難スペース」の確保に取り組みます。

東日本大震災では、妊産婦等が男女混合の避難スペースでの暮らしに不便さを感じたといえます。災害時困難を強いられる人に対し、少しでも安心・安全が保たれるよう配慮した避難場所の設置に取り組んでいきます。

また、要援護者のための福祉避難所の指定を進めるとともに、区民の意見に即した避難所の備蓄品の充実を図ります。

あわせて、MCA無線機\*が未配備となっている区内の防災拠点にハイパワー無線機\*を配備し、区災害対策本部と区内すべての防災拠点との情報伝達手段を確立していきます。

これらの取組を進めるため、危機管理課を新設し、各種施策・事業を強力に推進していきます。子どもの安全安心の確保、防犯の取組など、安全安心のまちづくりを推進します。

~~「災害対策リテラシー」とは…災害への対策を理解し、対応できるようにする能力~~

【成果目標】	27年度末	災害時の持ち出し品等の用意率	世帯数の50%
	27年度末	家具の固定率	世帯数の50%
	27年度末	収容避難所の場所を知っている区民の割合	70%
【工 程】	25年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施	
	26年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施	
	25年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施	
	26年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施	
	25年度末	調整が整ったものから順次実施	
	26年度末	調整が整ったものから順次実施	

文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

歴史的・文化的資産を活かして多くの人が集いにぎわうまち に向けて

## 5. 戦略的なシティ・プロモーション\*の推進

天王寺区には、数多くの歴史的・文化的資産が集積し、伝統行事やイベントが開催されていますが、効果的な情報発信ができておらず、区外の人にはもとより、新しい住民をはじめとして区民にも十分に伝わっていない状況にあります。

これらの資産は、他の区にない非常に貴重なものであるため、最大限活用し効果的な情報発信を行い、天王寺のまちのブランド力を強化し、シティ・プロモーション\*を押し進めます。

### 大坂の陣 400 周年にふさわしい、斬新かつ魅力的なイベントの実施

大坂の陣から 400 周年を迎える平成 26、27 年を目途に、幅広い世代、歴史ファンとそれ以外の人にも戦国史を気軽に楽しめるイベント「戦国博」(仮称)を開催します。それに向けて、区民・企業等からアイデア募集をし、戦略的・継続的に事業(天王寺ファン倶楽部、キャンドルナイト等)を展開します。



三光神社

さらに四天王寺等多数の神社仏閣が存在する天王寺区のみならず、「天王寺区 = 歴史のまち」というブランディング\*を強化し、JR 天王寺駅、近鉄大阪上本町駅といった大型ターミナルを活かした近畿圏のインバウンド\*観光推進の戦略を立案・推進していきます。

これに先立って天王寺区観光を売り込むにあたって、どこに収益機会があるか(国内/国外等のセグメント(単位)で)民間企業と連携してギャップ調査(地元が抱く区イメージと旅行者が抱くイメージとのギャップを調査)、海外からのイメージ調査を行います。そしてこの結果をもとに国内・国外にそれぞれ適切な形で PR を行います。



【成果目標】27年度末 歴史的・文化的資産の情報発信が十分にできていると  
感じる区民の割合 70%

【工程】25年度末 事業アイデアの募集、魅力PR用ツールの制作  
26年度末 大坂冬の陣イベントの実施

JR天王寺駅北口エリアの再開発について地元のアイデアを

一義的に市街地再開発等は広域行政である市の責任領域ですが、阿倍野再開発、近鉄グループの再開発の完成を目前にし、天王寺動植物公園の整備も進む中、これらのエリアに隣接するJR天王寺駅北口エリアの将来構想は非常に重要です。

これは天王寺区の活性化はもとより、大阪市全体の均衡のとれた発展(天王寺・阿倍野地区は、キタ、ミナミとともに大阪を代表するターミナルエリア)のためにも重要な課題です。

このエリアのにぎわいを創出すべく、まずは地元の意見を聴取するとともに、全国の法人等を対象にまちづくりや再開発のデザインコンペ\*を実施するなどして、「地域で打ち立てたビジョン」を尊重した広域行政の判断を促していきます。

天王寺区は文化・歴史・商業とバラエティある魅力を備えています。さらに、ターミナル駅を有することから交通の利便性も高く、市内外から集客を図り、回遊を促す高い潜在能力を有しています。北口エリアの再開発においては、現在の天王寺区には無い都市機能、例えばYUFURAとは異なる価格帯の店舗を備えた複合商業施設、あるいは昭和レトロや粉もんグルメなどテーマ性を持った商店街など、区の「新しい表情」をつくりだすという観点に立って「地域ビジョン」を確立していきます。

【成果目標】27年度末 地域ビジョンに共感する区民の割合 70%

【工程】25年度末 地域住民・関係者、民間事業者、専門家等から意見を聴取し、  
第1次報告書とりまとめ  
26年度末 第2次報告書とりまとめ・公表

グローバルビジネス\*プランコンテスト等実施で経済振興

総務省「事業所・企業統計調査」「経済センサス 基礎調査」によりますと、大阪市は平成18年以降、東京・名古屋・京都・神戸といった都市部と比べて、最も事業所の減少率が高くなっています。京都市は廃業・新設ともに少ないのが特徴ですが、神戸市などは廃業が多い代わりに新設も多い。一方で大阪は廃業率が神戸市より高く、新設率

文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

は神戸市より低い。大阪の経済浮揚を図る上で、廃業の抑制ではなく、新規事業の創出が求められています。

その上で天王寺区は大阪市内でも有数の起企業に適した立地環境を備えています。JR天王寺駅、近鉄上本町駅などといったターミナル駅、谷町筋、千日前通といった大道路があり、奈良方面・和歌山方面から大阪への玄関口に当たります。そして通勤・通学者が集まり昼間人口も大きく、また、子育て世帯や若手といった特定の層が多く居住していることから、天王寺区は新しい事業をスタートアップする環境として適していると言えます。

そこで、グローバルビジネス\*プランコンテストを実践するなどして、日本国内のみならず、起業を志す海外の優れた人材の誘致も積極的に行い、起業促進を強力に推進することを考えています。コンテストを通じて事業化されたビジネスプランについては、金融機関、企業団体等と連携して、国内・海外販路の開拓など各種経営助言・サポートの体制を整えていく方針です。

【成果目標】27年度末 起業が推進されていると感じる区民の割合 70%

【工程】25年度末 グローバルビジネス\*プランコンテストの実施案のとりまとめ  
26年度末 コンテストの実施

## 第2節 行政の可能性を広げるための、「挑戦」

### 1 資金捻出・調達・外部人材資源の公共への活用に「革命」を起こす！

区が所管する各種施策事業を徹底的に見直し、防災や福祉といった区民生活の核心的利益にかかる分野への支出を強化します。

具体的には、

#### （資金捻出）

区民センターの NPO フリーオフィス化など管理方法を見直します。年間約 3,300 万円（平成 24 年度 区予算 1.8 億円）と、区予算の大部分を占める天王寺区民センターの維持管理費を削減（主に人件費）するために、事務所スペースを NPO に無料で貸し付ける対価としてセンター運営業務を担ってもらうなどの新たな管理方法により経費の削減を図ります。

【成果目標】26 年度に維持管理経費を大幅に削減

【工程】25 年度末 条例改正に向けた調査・検討、および改正を踏まえた公募の実施

また、その他にも成果の乏しい様々な既存施策の見直しを進めるとともに、以下の手法を用いて資金調達（税外収入の確保）にも取り組んでいきます。

#### （資金調達）

自治体特化型クラウドファンディングの導入。クラウドファンディング（以下 CF）は、インターネットを通じて不特定多数の人々に比較的小額の資金提供を呼び掛ける仕組みです。CF 業界専門の市場調査企業 Crowdsourcing 社によりますと、平成 23 年の全世界の資金調達達成額は 14.7 億ドル（約 1,175 億円）で今後もハイペースの成長が続くと見込まれています。

こうしたトレンドを踏まえ、天王寺区の各種施策・事業について（地域団体の活動もあわせて）積極的に CF を活用した寄付を募っていく方針です。

#### 講堂等利用の促進～結婚式等各種イベント～

この他、区内の行政財産の目的外利用に関するルールを明確化し、利用料収入の確保にも取り組んでいきます。具体的には 3 階の講堂についてはこれまで日常的に活用され

文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

てきていませんでしたが、各種市民サークル、企業等のイベント用スペースとして提供していく方針です。

また、区内の公共施設を活用した広告募集事業の推進、ふるさと納税制度の更なる活用などによる財源確保を進めます。

【成果目標】	27年度末	新たな自主財源の確保 1,000万円
【工 程】	25年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施
	26年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施

#### (外部人材資源の公共への活用)

それから、7万2,000人区民の「声」を漏らすことなく区政に反映していくにあたって、財源を拡充するとともに大切なのが区役所職員のマンパワーの有効活用です。区役所には平成24年時点で約150人の職員が働いていますが、担当によっては恒常的に事務量が多く、日々新たに寄せられるニーズに対応し辛い状況が続いてきています。

こうした状況を緩和するとともに貴重な地域人材資源を公共に活用するため、天王寺区としてはプロボノ活用システムの導入を進めていきます。プロボノとはラテン語で「公共善のために」を意味する pro bono publico の略称で、各分野の専門家が自身の知識・スキルを活かして社会貢献することを指しています。

天王寺区では、プロボノ志望者をつのり、各種イベントのチラシ、ドキュメンテーション(対内外用の説明用資料作成)などにノウハウ・専門性を活かしてもらいます。また、このシステムの発展的な活用法として障がい者・求職者等に会議議事録の文字起こし、郵送事務等を委託することも検討します。

【成果目標】	27年度	外部人材が活用されていると感じる区民の割合	70%
【工 程】	25年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施	
	26年度末	調査・検討を行ったうえ、順次実施	

## 2 快適に利用できる区役所の追求！

多くの区民にとって区役所と聞いて一番はじめにイメージに浮かぶのが窓口サービスではないでしょうか。窓口には日々、「ゆっくりと相談したい人」「とにかく早く書類交付してもらいたい人」といった、時に正反対のニーズでお客様が訪れます。それぞれのニーズについて十分に対応するべく、平成25年2月からの窓口サービス一部民間委託化を機に、窓口をはじめ区役所の利便性向上に向けた各種取組を進めてまいります。

「キッズスペースの確保」。子どもが遊ぶためのマット、おもちゃ、絵本などを多く配備して、子ども連れでも安心して窓口利用してもらえよう環境を整えます。

「天王寺 名品の展示」。お客様に安らいでもらえるよう、天王寺ゆかりの有名人の直筆サイン、皆様から寄せられた天王寺区の史跡、自然の写真等を区役所各所に展示します。

「天王寺区役所入り口前にカフェスペース」。入り口前にベンチを用意し、お客様が用事後憩える場所を確保します。

急いでいるお客様、ゆっくり相談したいお客様、それぞれの事情、ニーズに応じた窓口対応を心がけます。例えば、エクスプレスカウンター（特急窓口）とローカルトレインカウンター（鈍行窓口）を分けるなど、全ての方が快適に利用できる窓口サービスを追求していきます。

屋内緑化を促進するため、1階窓口スペースに LED 照明を使った、環境に優しい水耕栽培システムを設置します。

そして、なにわ伝統野菜等の栽培に取り組み、収穫した野菜を配布するなど、お客様満足度の向上に役立てます。

【成果目標】	27年度末	来庁者の満足度	70%
【工 程】	25年度末	準備が整ったものから、順次実施	
	26年度末	準備が整ったものから、順次実施	

文中 \* の印がついている語句は  
最終ページに注釈があります

### 第3節 市政改革プランに基づく「大きな公共を担う活力ある地域社会づくり」

天王寺区では、地域において様々な地域活動が熱心に展開されていますが、近年のマンション建設に伴う新しい住民や若手世代への広がりが十分ではありません。

また、活動に取り組む団体間の連携もかならずしも十分ではなく、連携をより強固にすることにより、活動の一層の活性化、多くの区民への広がりが期待されます。

そのため、連合振興町会エリア単位の団体が連携し、新しい住民や若手世代も一体となって地域課題の解決、地域の活性化に取り組む「地域活動協議会\*」の形成支援と活動支援に取り組みます。

また、ヒト、モノ、カネの循環による地域の自立化に向けた取組を支援するなど、区役所は中間支援組織\*と連携しながら、地域活動を支える「かなめ」としての機能を果たします。

(連合振興町会エリア単位での課題の共有と解決に向けた取組の支援)

【成果目標】26年度末 地域運営にさまざまな活動主体が参画し、会計をオープンにするなど、地域が一体となって運営されていると感じている区民の割合 80%

26年度末 中間支援組織\*による支援を必要とする団体のうち、適切な中間支援組織\*による支援を受けることができる環境が整備されていると感じている団体の割合 60%以上

【工程】25年度末 成果指標の達成に向けた各取組の推進

(多様な協働による地域活動の活性化)

【成果目標】26年度末 地域のまちづくりに関する活動が地域団体やNPO、企業など様々な活動主体の連携・協働により進められていると感じている区民の割合 60%以上

【工程】25年度末 成果指標の達成に向けた各取組の推進

(「天王寺区 区民栄誉賞」(仮称)の創設)

このほか、既存の地域団体については区役所側からの協力依頼等の頻度・量を抜本的に見直し、自由闊達に活動していただける環境整備に取り組んでまいります。

あわせて、「天王寺区 区民栄誉賞」(仮称)を創設し、優れた活動を長期にわたって続けてこられた団体の代表者や功労者を表彰し、地域活動の中で抱いた意見要望を積極的に区役所に届けていただけるようお願いしていきます。

用語解説（五十音順）

インターンシップ	学生が一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度
インバウンド	外から内に入ってくること。転じて、観光に関して、海外から来日する旅行者のこと
SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）	インターネット上で登録した会員を対象に提供されるインターネット上の交流の場
MCA無線機	「マルチ・チャンネル・アクセス」方式という複数の定められた周波数を複数の利用者で共同使用して通信するもので、広範囲な通信が可能な無線機
かまどベンチ	普段はベンチとして使用し、災害時には「かまど」として使用することができるもの
グローバルビジネス	世界に通用する事業展開を行うこと
個人実施型保育ママ事業	保育ママ（家庭的保育者）が、家庭的保育補助者とともに家庭的保育支援者や連携保育所から支援を受けながら、0歳児から2歳児までの児童を少人数で保育を行う事業
災害対策リテラシー	災害への対策を理解し、対応できるようにする能力
サイレント・マジョリティ	公の場で意思表示をすることのない大衆の多数派のこと
シティ・プロモーション	地域の魅力を創出し、それを国内外に発信することにより都市のブランド力を高め、「人」・「もの」・「情報」が活発に行き交う、元気で活力のある都市を創る活動
地域活動協議会	校区等地域を単位として、地域振興会等の地域団体と、マンション住民、企業、NPO などこれまで地域活動にかかわりの薄かった、より幅広い人々等の参画のもと、「地域のことは自らの地域で決める」という基本に立ち帰り、新しい地域社会づくりを進める自律的な運営の仕組み。

中間支援組織	地域活動協議会の形成・運営にかかる積極的支援等を行うため、地域活動の担い手の発掘や育成、活動に役立つ情報提供、参画する人々の連携・協働のための橋渡しの役割を担う組織として、区役所内に設置
デザインコンペ	事業などのデザイン案を募集し、選考により選ばれた案の応募者に、事業を発注すること
ニア・イズ・ベター	住民に近いところで行われる決定ほど望ましい、という地方分権の基本的な考え方
ハイパワー無線機	M C A無線機より通信可能距離が短い無線機
パウチャー制度	国や自治体などが目的を限定して個人を対象に補助金を支給する制度。所定の手続きにより引換券として支給する方式が多い。教育・保育・福祉などの公共サービスが対象で、利用者はその中から必要なものを選択し、引換券を提出してサービスを受ける
ブランディング	顧客や消費者にとって価値のあるブランドを構築するための活動
ライフライン	都市生活の維持に必要不可欠な、電気・ガス・水道・通信・輸送など
ワークショップ	講師の話に参加者が一方的に聞くのではなく、参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習